

3つの群れ

市内の出土品は、鼻に2つの小穴を開けたもの(A)と、口とあわせて横線のみで表現したもの(B)に分かれます。さらに、Bでも御着城跡出土の2匹は体形が細身で(Ba)、姫路城跡などから出土した太っちょ犬(Bb)とは様子が異なります。また、Aタイプも置塩城跡で出土した大型品や英賀保駅周辺遺跡の瓦質の黒犬など個性が見られました。

鼻の穴を表現したものは堺環濠都市遺跡でも出土していますが、数は少ないようです。一方、Bbタイプは大坂城三の丸跡から大量に出土した犬形土製品などと共通するもので、全国的にも広く分布しています。



姫路市内から出土した 犬形土製品たち

戦国時代の終わりから安土・桃山時代の遺跡を発掘していると、ときおり犬の土人形が出てきます。巻いたしっぽに垂れた耳、ムクムクした姿は子犬を表現したとする説もあり、愛嬌いっぱい。

これらは犬形土製品と呼ばれ、16世紀後半を中心に17世紀初頭まで作られました。大きさは長さ4~6cm、高さ3~5cm。伏見人形など江戸時代の17世紀後半以降に大量生産された「型づくり」ではなく、「手づくね(手びねり)」の素焼き製です。近畿の事例が多いものの、東北から九州まで40カ所余りの遺跡から見つかっています。1999(平成11)年には、大坂城三の丸跡で100点以上が集中して発見されました。姫路市内でも6カ所の遺跡から9個の犬形土製品が出土しています。

この時期の土人形には猪や猿もありましたが少数です。犬に特別な意味があったことが推測でき、安産のお守りや魔よけであったと考える人もいます。また、現在でも奈良の法華寺や岡山の吉備津神社では手づくねの犬が作られており、それぞれ安産のお守りや盗難・火難よけとして人々に親しまれています。

姫路市内から出土した犬形土製品たち
2006(平成18)年10月28日
姫路市埋蔵文化財センター
Himeji City Buried Cultural Property Research Center
〒671-0248 兵庫県姫路市御着町坂元414番地1
TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952
URL <http://www.city.himeji.hyogo.jp/maibun-center/>
E-mail maibun-center@city.himeji.hyogo.jp



姫路市埋蔵文化財センター

参考文献

- 鎌谷和彦「戦国時代の犬形土製品」『関西近世考古学研究』1997
- 江浦 洋「大坂城跡出土の犬形土製品小考」『大阪文化財研究』18巻 2000



5

英賀保駅周辺遺跡第3地点

町坪

- 発見年次 第4次 2004(平成16)年度
- 出土地点 23区 SD02
- 大きさ 高さ3.2cm残 長さ5.2cm



15~16世紀の溝から備前焼の播鉢などといっしょに出ています。

特別史跡 姫路城跡

本町

- 発見年次 第197次 2001(平成13)年度
- 出土地点 A地区 南北街路下層
- 大きさ 高さ3.4cm 長さ5.1cm



大手門前の武家屋敷地区の街路の下より出土しました。



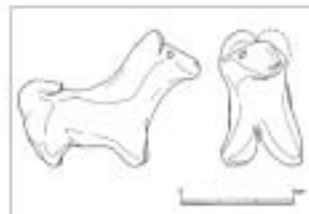
3

2

仮称大井川区整地内遺跡第2地点

玉手

- 発見年次 第11次 1995(平成7)年度
- 出土地点 2区 SD01
- 大きさ 高さ3.6cm 長さ4.8cm



南北方向の素掘りの溝から見つかりました。
|『TSUBOCHORI』平成7年度



国指定史跡 置塩城跡

夢前町宮置・糸田



4

- 発見年次 第2次 2002(平成14)年度
- 出土地点 1. 第Ⅲ-1曲輪 1-6トレンチ
2. 第Ⅲ-1曲輪 表探
3. 第Ⅲ-1曲輪 1-1トレンチ
- 大きさ 1. 高さ3.7cm 長さ5.8cm
2. 高さ3.6cm残 長さ6.4cm
3. 高さ2.6cm残 長さ3.55cm残



3つの犬形土製品と1つの猿形土製品が出土しています。犬形のうち1個は、胴体だけの破片です。

〔『御着置塩城跡発掘調査報告書』2006〕

御着

御国野町御着



- 発見年次 2005(平成17)年度
- 出土地点 御着
- 大きさ 高さ3.4cm残 長さ5.4cm

御着城跡からみて北東の畑のなかで採集されました。

6

1

御着城跡

御国野町御着

- 発見年次 第3次 1978(昭和53)年度
- 出土地点 1. 二の丸 井戸2
2. 二の丸 表探
- 大きさ 1. 高さ3.0cm残 長さ4.2cm
2. 高さ3.8cm 長さ3.4cm

二の丸から犬形土製品が2点、土坑105から猪形土製品、本丸井戸から猿形土製品が見つかりました。

〔『御着城跡発掘調査報告書』1981〕

